

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	令和元年7月5日 ～ 令和2年3月13日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <p>ア. 教育課程に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既卒者受け入れに伴う学習活動の工夫や教材研究、評価等について <p>イ. 教職員の配置・研修に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語指導、カウンセリング能力を高めるための研修について <p>エ. その他夜間中学における教育活動充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習ボランティアの活用について ・ ソーシャルワーカー、カウンセラーの活用について ・ 経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動の在り方について ・ 高齢化や遠方から通学する生徒への支援の在り方について
調査研究のねらい	<p>○不登校等により学べなかった既卒者の方や日本語力の必要な方に対する効果的な学習方法や教材研究、評価方法等を探る。</p> <p>○様々な問題に対する相談体制の確立に関する人員の配置を行う。</p> <p>○生徒の生活の実情に応じた日本語指導の充実を図るため個別学習を行い、学習指導のできる方をボランティアとして活用する方法を探る。</p> <p>○国籍が多様で、生活経験や学力がひとり一人異なることから、生活上の悩みが多く対応が難しい場面がある。ソーシャルワーカー、カウンセラーの活用を試みる。</p> <p>○経済的負担を考慮した効果的な学校行事や校外活動を支える取り組みを探る。</p> <p>○高齢化や遠方から通学する生徒への支援の方法を探る。</p> <p>○就労等に役立つよう各種検定の受験を押し進める。</p>
調査研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間学級の生徒は仕事や子育てをしながらの生徒が多く、夜間学級の通常の時間帯に出席できないケースも多い。そこで、学習時間帯の工夫（15時からの課外授業）を行うことで学習の機会を確保した。 ・ ソーシャルワーカーの配置には至らなかったが、生活相談に対

応できるカウンセラーを配置しソーシャルワーカーの役割も担ってもらった。生徒から、心の問題、家族間の悩み、子育ての悩みなど多岐にわたる相談を受け、心のケアを行うことができた。また、生活相談を受けて他の機関へつなぐことができた。カウンセラーは教職員との間での情報共有、専門的知見に基づくアドバイスを行うことにより、教職員は生徒にスムーズな対応をすることができた。

課題としては、①夜間勤務のカウンセラーの確保が難しいこと、②配置が9月にずれ込んだため生徒との人間関係の構築後の効果的なカウンセリングをする機会が限られてしまったこと、③カウンセラーの勤務する曜日、時間帯が決まっているために一部の生徒がカウンセリングを受けられなかったこと、などがある。

- ・外国籍生徒へのカウンセリングについての研修を、公認心理士・臨床心理士の資格をもつ講師を招いて実施した。カウンセリングがうまく進まない大きな要因は言葉の違いではなく、人同士の相性であるということを教職員が理解することができた。

- ・学習ボランティアの募集を行い2名の希望者が見学に来られた。しかしながら、2名とも教員免許を所持しておらず、ボランティアとしてどこまで教育に関わってもらうべきかという点で学校と希望者の双方の合意が得られずボランティア実施には至らなかった。

- ・日本語能力の向上のため、生徒の漢字検定の受験に取り組んだ。受験に向けてのプリントを作成するなどのサポートを行い、受験者は全員合格することができた。合格した生徒については今後もモチベーションを維持しつつ上位級の受験を目指し、今回受験しなかった生徒には受験を勧め、今後も漢字、日本語の能力向上を図っていきたい。

- ・バスでの校外学習は高齢、足の不自由な生徒が参加しやすく、また生徒負担がないため、生徒からは好評で、バス内での交流により生徒間・教員間でのコミュニケーションも図ることができ、有意義なものであった。